

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則について

本大会は2022年 公益財団法人 日本陸上競技連盟競技規則及び競技注意事項によって実施する。

2. 練習場及び練習について

(1) 練習は、下記のように本競技場を使用してよい。

8月12日 9時～17時（300mH・400mHおよび投擲練習は下記の通りとする）

300mH：9:00～10:00, 11:00～12:00, 13:00～14:00, 15:00～16:00

400mH：10:00～11:00, 12:00～13:00, 14:00～15:00, 16:00～17:00

円盤：10:00～11:00, 12:00～13:00, 14:00～15:00 やり：11:00～12:00, 13:00～14:00, 15:00～16:00

8月13日 7時～9時（開始式中は中断すること）

8月14日 7時～9時

(2) 投擲の練習は砲丸投・円盤投・やり投のみ使用できるが、事故防止のため必ず監督、コーチ立会のもとで練習すること。また、大会期間中の朝の投擲練習は当日に競技のある種目のみとする。ハンマー投の練習は競技場内外を問わず禁止とする。

3. 競技者の招集について

(1) 招集所は競技場正面玄関横に設ける。

(2) 各種目の招集開始時刻・完了時刻はすべてその競技開始時刻を基準とし、下記の要領で行う。

種 目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	25分前	15分前
フィールド競技	40分前	30分前
棒 高 跳	70分前	60分前

※棒高跳は1時間前現地点呼

(3) 招集開始時刻までに招集所に集合し、係員から最終点呼を受ける。同時にアスリートビブス、シューズ、競技場内持込品などの確認を受ける。

(4) 棒高跳に出場する競技者は、競技開始時刻の1時間前までに現地に集合のうえ点呼を受け準備を行うこと。

(5) 他の種目に出場しているなどの特別の事情がある場合に限り、代理人による点呼を認める。この場合必ず競技者係主任に申し出ること。

(6) 招集時刻に遅れると、当該種目を棄権したものとして処理するので注意すること。

(7) 当該競技を棄権する場合は競技者係に届け出ること。（招集開始時刻前までに届け出ること）

4. アスリートビブスについて

(1) 全ての競技者はユニフォームの胸、背に交付された大きさのまま確実に付けること。（安全ピンで4カ所とめる）3000m以上の種目は別ビブスを使用する。競技者係にて受け取ること。

跳躍競技の競技者は胸又は背のどちらかに付けるだけでよい。

(2) トラック競技出場者は別に右腰に腰ナンバーカードを付ける。（招集時に受け取る）

5. A、B決勝の振り分け及びレーン順、試技順について

(1) トラック競技予選レーン順、フィールド競技試技順はプログラム記載の順による。

(2) 決勝の組み合わせ及びレーン順は番組編成係で抽選をし、その結果を招集所に掲示する。

(3) A、B決勝の振り分けについては、予選記録によって上位8名をA、下位8名をBとする。

6. 競技について

(1) TR16.7により、不正スタートをした競技者は1回目以降当該競技を失格とする。

また、競技規則TR16.5.1～3を行った場合、審判長がイエローカードを示し警告を与える場合がある。同一競技で2枚のイエローカードを受けた競技者は、当該競技を失格とするが、それ以後の種目の出場は妨げない。

(2) トラック競技におけるTR5.2に違反するシューズでの出場は認めない。

(3) フィールド競技においてはTR5.2を適用しない。よって、記録は国内でのみ通用するものとなり、WAへの申請も行わない。

(4) 1レースの競技者が多数の場合は、グループスタートを行う。

(5) トラックレースの予選において、棄権により8名以内の出場者となった場合は予選を取りやめ、決勝の時間に行う。

(6) 運営上の理由から、800mの少共男予選および少A女決勝において9名で実施する。その場合9番の競技者を8レーンに入れて実施する。また、5000mWは少共男を1～3、成年女を4～8として男女混合で実施する。

(7) 短距離競走のフィニッシュ後は、競技者の安全のため自分に割り当てられたレーン（曲走路）に沿って走り終えること。

- (8) 棒高跳の競技者は、自分の希望する支柱の位置を所定の用紙に記載し、跳躍審判員に届け出る。
- (9) 助力については、競技場内での助力は禁止とする。指定されたエリアのみで行うことができるが、競技運営や競技者の競技の妨げにならないよう注意すること。また、競技者に映像機器を見せることができるが、競技者としてはいけない。ミュージックプレーヤー・携帯電話の通信機器を競技場内に持ち込むことはできない。

7. 競技規定及び方法

2022年度日本陸上競技連盟規則によるもののほかは次とする。

- (1) 少年男子A 300mHのハードルの高さは、0.914mとする。
- (2) 少年男子Aハンマー投のハンマーの重さは、6.000kgとする。
- (3) 少年男子B 110mJHのハードルの高さは、0.991m、ハードル間は9.14mとする。
- (4) 少年男子B円盤投の砲丸の重さは、1.500kgとする。
- (5) 女子少年A 300mHのハードルの高さは、0.762mとする。
- (6) 少年女子B 100mYHのハードルの高さは、0.762m、ハードル間は8.5mとする。
- (7) 走高跳、棒高跳のバーの上げ方は次のとおりである。

		練習	1	2	3	4	5	6		
走高跳	少年男子共通	1m65	1m70	1m75	1m80	1m85	1m90	以後は3cmあがり		
	少年女子共通	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60	以後は3cmあがり			
	成年女子	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60	以後は3cmあがり			
棒高跳	少年A男子	3m50	3m60	3m70	3m80	3m90	4m00	4m10	4m20	以後は10cmあがり
	成年女子	2m40	2m50	2m60	2m70	2m80	2m90	3m00	3m10	以後は10cmあがり

- ① 第1位決定の上げ下げは、走高跳で2cm、棒高跳で5cmとする。
- ② 天候その他の特殊条件によって変更する場合は当該審判長が決定する。

8. 競技場への入退場について

- (1) 競技場への入退場は全て、競技役員の誘導により行う。競技者以外は競技場に立ち入ることはできない。
- (2) 競技終了後における競技者は、スタンド横の通路より退場し、メインスタンド前は通らないこと。
- (3) フィールド競技における競技者は、当該審判員、マーシャルの指示に従い退場すること。

9. 競技用器具について

- (1) 競技に使用する用器具は、主催者が用意したものを使用する。但し、棒高跳のポールは、個人所有のものを使用する。ポールについては、その競技開始前に跳躍場で跳躍審判員の検査を受け、許可されたものが使用できる。(やりも個人所有のものを認める。但し、用器具庫で検定を受けること。)
- (2) フィールド競技で、助走に使用するマーカーは主催者が用意する。使用し終わったら、競技者自身で取り外し、所定の場所に返納すること。

10. 表彰について

各種目8位までの入賞者には賞状を授与する。但し、表彰は3位までとし、当該競技終了後直ちに表彰する。4～8位の賞状はエントランスホールに賞状置き場を設けるので各自受け取ること。尚、A、B決勝がある種目については、A決勝出場者のみを表彰対象とする。

11. 応急処置について

本部席内に医務員を配置し、応急処置までの用意がある。

12. テントの設営場所について

テントを張る場合は次に従い、各自責任を持って取り扱うこと。

- ・大会前日は設置できない。大会当日の開門(7:00)より認める。
- ・大会中は設置したまま置いていくことは認めるが、折りたたんでおくこと。(責任は一切持たない)
- ・メインスタンドへの設置はしないこと。

13. ごみ処理について

ゴミはすべて持ち帰ること。

14. その他

貴重品の管理は、各自またはチームごとで責任を持って行うこと。